

### 3. 事業報告

#### 1) 組織運営体制の強化

前年度から継続して取り組んだ組織全般の運営体制強化の結果、グループ毎の活動や理事・スタッフ間の協働が少なからず前進した。子どもの村の運営体制については、2017年7月から二代目村長として迎え入れた石田公一氏が2018年6月末体調不良により止む無く退任することとなったため、飯沼理事長が村長を兼務、今野理事、高橋理事を村長補佐にした体制で村運営を行った。

また、宮城県からの委託事業においては高橋理事とスタッフ、外部専門家をチームとし本格的に活動を進めた。

育親の採用については1名を採用した。村のスタッフは2名を採用したものの1名が退職し、体制の安定を図ることについては課題を残した。

#### 2) 子どもの村建設関連の取組み

家族の家追加工事（1棟）については、新しい社会的養育ビジョンや変化する児童福祉関係法制度を背景に、地域課題やファミリーホーム化計画、その他の事業との関係を考慮しながら、総合的に検討を進める計画であったが諸要件が整わず具体的検討は見送った。次年度の課題である。

#### 3) SOS 子どもの村 JAPAN との統合の取組み

懸案の課題である SOS 子どもの村 JAPAN との統合に関しては、事業の進捗状況、財務状況など当法人の現状に課題があり、今後の展望を見極めながら検討を進めることとした。

#### 4) 子どもの村東北の運営

国際 NGO「SOS 子どもの村」の理念に基づく運営と子どもの養育を目指すため、研修と実践を常に大切にしながら、スタッフの力量を高め、社会的養護における家庭養護のモデル作りに向けた取り組みの強化に努めた。

##### (1) 子どもの受け入れ

2018年度は、育親家庭2家庭、子どもは2名で出発し、9月に新たに1名の育親を採用した。子どもの委託は、短期預かりとして12名の一時保護と8名の里親レスパイト・ケア、家庭生活体験事業等の子どもを受け入れた。

開村から4年間で養育した子どもの実数は、短期預かりを含め59名となった。

さらに、次年度に向けて受け入れ体制強化のため、ファミリーホーム化に向けた体制作りを開始した。

## [子どもの受託状況]

(人)

| 区 分                                                | 年 度  |      |      |      |      | 計  |
|----------------------------------------------------|------|------|------|------|------|----|
|                                                    | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |    |
| 新規に里親委託等された子どもの数 (A)                               | 2    | 2    | 2    | 1    | 0    | 7  |
| 家庭に帰った子ども等の数 (B)                                   | 0    | 0    | 3    | 2    | 0    | 5  |
| 今年度里親委託等されていた子どもの数 (C)<br>(C = 前年度C - 前年度B + 今年度A) | 2    | 4    | 6    | 4    | 2    | —  |
| 一時保護の子どもの数 (D)                                     | 0    | 2    | 4    | 5    | 12   | 23 |
| 里親レスパイトケアの子どもの数 (E)                                | 0    | 2    | 7    | 2    | 6    | 17 |
| 家庭生活体験事業の子どもの数 (F)                                 | 0    | 2    | 4    | 2    | 2    | 10 |
| その他の子どもの数 (G)                                      | 0    | 1    | 1    | 0    | 0    | 2  |
| 短期預かりの子どもの数 (D~G=H)                                | 0    | 7    | 16   | 9    | 20   | 52 |
| 村で養育した子どもの数 (I)<br>(I = 前年度I + A + H)              | 2    | 11   | 29   | 39   | 59   | 59 |

※2016、2017年度数値については過年度報告書の数値を訂正した。

## (2) 育親家庭等への支援の仕組み作り

子どもの村の特性を活かし、育親家庭への支援、一時保護、里親レスパイトケア、施設入所児の家庭体験等の多様な受け入れを進めた。また、育親やスタッフの休養日や休憩等の確保などの仕組み作りの充実に取り組んでいる。

一時保護に関しては、今年度急増し、2才から中学校2年生まで幅広い年齢の子どもたちを多数預かったが、その都度スタッフが適宜支援し、場合によっては育親を交代することで対応した。

## (3) 育親・村スタッフ研修の定例化

月1回の運営会議の際に子どもサポートグループの理事からの研修を受けるほか、理事・臨床心理士・外部講師による研修を行った。

## (4) 村の運営体制の充実

運営会議、養育支援会議、ファミリーチームミーティング(FTM)等の会議は、年間計画及び月間計画を作成することで定例化し、新たにスタッフ会議を始めた。県委託事業の関係で村運営と委託事業双方を円滑に動かすための新たな組織体制を運営することが課題である。

## (5) 専門家サポートの充実

子どもサポートグループの支援のもと、養育支援会議が充実した。子どもサポートグループ、外部専門家と連携し、村スタッフの専門性を発揮できる体制を作るための村内研修は定例化し、充実している。引き続き研修課題を検討しながら進めていきたい。

◆支援会議等

|    | 養育支援会議                                                               |
|----|----------------------------------------------------------------------|
| A棟 | 4/24、5/29、6/21、7/11、8/10、9/12、10/10、11/14、12/12、1/23、2/20、3/20（計12回） |
| B棟 | 4/19、5/17、6/14、8/2、9/20、10/18、11/29、1/17、2/21、3/28（計10回）             |

(6) 関係機関との連携

児童相談所をはじめ、学校、養育機関、病院など関係機関と連携した養育を進めた。また、児童関係施設や民生委員、主任児童委員、里親支援専門相談員、保護司などの団体の視察を多く受け入れ、他に多くの個人視察に対応した。また、理事が村外での研修会等に招かれ、社会的養護や子どもの村に関する情報の普及に努めた。

(7) 地域とともに育てる

地域の市民センターの改装により、地域のグループ活動に杜のホールを会場として提供し、福祉事業所への会場提供なども多数あった。このことで、理事が講師を務める地域研修会が村を会場にして実現した。

また、理事が小中学校の学校評議員等を務めたことで、小中学校との連携がさらに進んだ。

(8) 支援者・ボランティア・メディアとの協働

関東学院大学や遠方に住む方からのボランティア支援及び交流は継続している。また村環境整備のためのボランティアも定期的に受け入れている。

企業からの村庭環境整備ボランティアも受け入れ、これについては次年度の継続及び拡大が期待される。

(9) 村の建物、村庭、備品などの管理・保全に努める

家族の家のエアコンの増設、村庭の砂場の改設、こいのぼりポールの設置の他、花木植栽や移植、芝生の整備等に努めた。

村内の清掃と村庭の環境整備の日を増やし、週間計画の中で定例化した。このこととボランティア活用により、建物内外及び村庭の環境整備は改善された。増設された備品の保管・保全に努めていきたい。

## 5) 村の支援強化とセンターハウス事業

外部専門家と連携し、子どもの村の里子や育親などスタッフへの支援体制強化を進めた。また、関係機関・団体と連携し、震災孤児を育てる親族里親をはじめ、地域の里親や子育て家庭への支援を行った。

(1) 子どもの村運営への支援強化

- ① 運営会議等子どもの村で開催する会議への出席者を増強し、グループ毎の連携と支援強化を図った。

② 子どもの受け入れ会議を構成

児童相談所からの依頼により里子を受け入れる（委託措置）際には、子どもの受け入れ会議を開催して決定する。子ども受け入れ会議の委員は、村長、センターハウススタッフ、子どもサポートグループ理事で構成し、受け入れ体制を整えた。

③ 4) (3)にあるように、子どもの村スタッフの人材養成を目的とした村内研修を実施した。また、委託児童等についての事例検討会において、子どもサポートグループ理事が講師や助言者をつとめた。

(2) センターハウス事業の実施

① 杜のホールを活用した事業を積極的に行うよう努めた。

② 地域のニーズに対応して、地域住民等による杜のホール利用を調整した。

③ 子育て研修会やミニコンサートを開催した。

④ 育親や一般里親を対象として研修会を開催し、人材養成を図った。

【人材養成研修 第7期公開講座】

| 公開講座                        | 講師    | 開催年月日/会場                              | 参加者数 |
|-----------------------------|-------|---------------------------------------|------|
| 「学ぶことが大好きになる<br>ビジョントレーニング」 | 北出勝也氏 | 2019年3月29日(金)<br>/エル・パーク仙台<br>セミナーホール | 111名 |

(3) 子どもサポートグループ会議の開催

子どもサポートグループ会議を下記の通り実施した。

|   | 会議名                      | 開催年月日          | 会場      |
|---|--------------------------|----------------|---------|
| 1 | 子どもサポートG担当理事<br>臨時ミーティング | 2018年6月10日(日)  | 角川ビル会議室 |
| 2 | 第43回子どもサポートグループ会議        | 2018年7月28日(土)  | 角川ビル会議室 |
| 3 | 第44回子どもサポートグループ会議        | 2018年11月10日(土) | センターハウス |
| 4 | 第45回子どもサポートグループ会議        | 2019年1月12日(土)  | センターハウス |
| 5 | 第46回子どもサポートグループ会議        | 2019年3月16日(土)  | センターハウス |

(4) 外部専門家との連携を図り、「家族の家」の支援体制を整える。

「家族の家」の支援体制を整えるため、最低月1回外部専門家に来村してもらい、育親支援や子ども支援を行った。

6) 関係機関との連携

(1) 「絆連絡会」の開催

宮城県、仙台市、県や市各児童相談所と連携して「絆」連絡会を開催した。子どもの村東

北から現況報告や子どもの受入体制等の情報を提供し、さらに、県内の社会的養護の状況について児童相談所と情報交換することにより、関係機関と村の連携を強化する目的で行った。

◆絆連絡会

| 開催年月日              | 出席機関                                 | 会場                  |
|--------------------|--------------------------------------|---------------------|
| 2018年<br>11月22日(木) | 宮城県・仙台市・各児童相談所<br>県・市里親会・子どもサポートグループ | 仙台市市民活動<br>サポートセンター |

(2) 各社会的養護関係団体との連携

前年度より引き続き親子滞在型支援施設事業を宮城県より委託され実施した。

◆親子滞在型支援施設事業（宮城県委託事業）研修会

| 講演名            | 講師       | 開催年月日/会場                  | 参加者 |
|----------------|----------|---------------------------|-----|
| これからの社会的養護のあり方 | 上鹿渡 和宏 氏 | 2019年1月18日(木)<br>/センターハウス | 36名 |
| 家族再統合への取り組み    | 松崎 佳子 氏  |                           |     |

(3) 子ども支援システムの研究・開発

宮城県委託事業の実施に伴い、フォスタリングチェンジプログラム、家族再統合、ACTすこやか子育て講座、発達障害の子どもへの支援、虐待防止、愛着障害等に関する研修を受講した。

一時保護児童のための学習プログラムを作成し、実践した。これについては、人材養成研修で学んだ「ビジョン・トレーニング」を併用しながら、村独自のプログラムとして運用を始めた。仙台市児童相談所には報告している。

|   | 月/日     | 講座名                                         | 開催地 | 参加者      |
|---|---------|---------------------------------------------|-----|----------|
| 1 | 5/19    | 宮城サインズ（サインズ・オブセーフティ）勉強会                     | 仙台市 | 平山、面川、徳永 |
| 2 | 7/20    | 家族再統合に関する実務研修会（基礎編）                         | 名取市 | 平山、土屋、川村 |
| 3 | 8/8～9   | 発達協会実践セミナー「不器用さ」への理解と指導                     | 東京都 | 平山、徳永    |
| 4 | 8/9     | 仙台キリスト教育児院国際セミナー「英国のボランティア団体におけるソーシャルワーク実践」 | 仙台市 | 土屋、宮崎    |
| 5 | 8/27～31 | フォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成講座                    | 仙台市 | 土屋、川村、宮崎 |
| 6 | 9/22    | 宮城サインズ（サインズ・オブセーフティ）勉強会                     | 仙台市 | 平山、徳永、川村 |
| 7 | 10/5    | 心のケア研修会 自己肯定感を育む子どもの支援を考える                  | 石巻市 | 平山、宮崎    |
| 8 | 10/28   | 子どもの虐待防止推進全国フォーラム in みやぎ                    | 仙台市 | 平山、土屋、   |

|    |              |                                               |     |          |
|----|--------------|-----------------------------------------------|-----|----------|
|    |              |                                               |     | 徳永       |
| 9  | 12/14        | 第1回ファシリテーターフォローアップミーティング                      | 仙台市 | 土屋       |
|    | 月/日          | 講座名                                           | 開催地 | 参加者      |
| 10 | 12/15        | リレーションシップみやぎ～扱いづらい子どもは発達障害ですか                 | 仙台市 | 土屋、徳永    |
| 11 | 12/25        | 少子化対策トップセミナー～子育てみやぎの挑戦                        | 仙台市 | 平山、徳永、宮崎 |
| 12 | 1/27         | 児童虐待防止全国ネットワーク 第28回シンポジウム<br>「精神疾患のある親への育児支援」 | 東京都 | 徳永       |
| 13 | 2/16         | 宮城サイエンス（サイエンス・オブセーフティ）勉強会                     | 仙台市 | 平山、徳永、宮崎 |
| 14 | 2/22         | 子どもの夢ネットワーク<br>仙台市養護施設研究会合同研修会                | 仙台市 | 平山、徳永、川村 |
| 15 | 2/24         | 発達協会セミナー「大人に反抗する子どもをどう理解し、関わるか」               | 東京都 | 徳永、平山    |
| 16 | 2/26～<br>3/1 | SOS子どもの村 JAPAN 子どもの村福岡 実地研修                   | 福岡県 | 宮崎       |
| 17 | 3/16         | 家庭養護推進フォーラム<br>「これからの社会的養護を考える」               | 仙台市 | 宮崎       |

(4) SOS子どもの村 JAPAN（子どもの村福岡）と連携し、スタッフ研修を実施するなど、情報交換を図った。

## 7) 宮城県委託事業の実施

宮城県から委託された「親子滞在型支援施設事業」について、仕様書に基づき、家族再統合支援事業と里親マッチング事業を実施した。

### (1) 家族再統合支援事業

分離している子どもと家族との関係を再構築し、その家族にとって最も望ましい形態を見つけれられるように支援することを目的とする。必要があれば、親子で宿泊して訓練を行い、家庭復帰をより現実的にイメージする。

今年度の受託ケースは4件あり、うち1件が3月末に終了した。

それぞれの対象家族に合わせたプログラムを作成し、児相や各関係機関の担当者と協議しながら実施した。

### (2) 里親マッチング事業

里親候補者と要保護児童の面会交流等を通じて不調の防止を図ることを目的とする。

今年度、事業利用の相談は1件あったが、依頼は0件であった。

## 8) 社会的養護に関する情報提供・啓発事業

子どもの村東北の運営をはじめとする当法人の各事業を広く報ずるとともに、社会的養護や里親支援、社会的養護が必要な子どもの養育に関する情報提供を行った。

### (1) 情報提供の強化

里親支援の必要性や社会的養護に関しての正しい知識などを、ニュースレターなどを通して広く普及することに努めた。また、マンスリー寄付や口座自動引落とし、クレジットカードを使った寄付が可能になったことなどの情報提供にも注力した。

### (2) ホームページなど既存ツールの改善

- ①外部専門家（プランナーやライター）の協力を得て、ホームページの改修に取り組む計画ではあったが、検討を進めるなかで、大規模な改修は見送り、マンスリー寄付の告知やクレジットカード払い申込みページの改修を実施した。その結果、マンスリー寄付による新規支援者や、既存の支援者のマンスリーへの切り替えが現れるなどの効果が確認された。
- ②フェイスブック広告の低コストで広範囲に告知できる長所を利用し、活動のPRや求人募集を行った。関心を示す反応は多数あったものの直ぐに支援に結びつくには至っていない。支援への動機づけとしての効果が期待できるため、今後もタイムリーな活用を検討する。

### (3) ニュースレターの発行

今年度は3回の発行を計画し、Vol. 19（2018年4月20日付）、Vol. 20（2018年10月15日付）、Vol. 21（2019年1月15日付）を発行した。Vol. 20からは外部専門家（プランナーやライター）を制作チームに迎え入れ、現地取材、制作力を強化した。コンサート会場など広報PR活動の際に配布したところ、長時間読み込む方の姿が多く見られ、表現力が向上した成果を見ることができた。

### (4) 街頭活動の実施

今年度の街頭活動は8回計画し7回実施（内、1回はチラシ配布のみ）、その他にコンサート会場など小規模な募金・PR活動を9回実施した。各地で災害が多発したことや酷暑により、時間を短縮して実施するなどの対策を講じた。また、常盤木学園高等学校及び聖和学園高等学校の高校生ボランティアに協力をいただいた。学生ボランティア確保においては、新規協力校の開拓をも試みたが、日程の関係で今年度中の協力には及ばなかった。

#### 【街頭活動】

|     | 日付        | 会場     | 募金額                 | ボランティア数 |
|-----|-----------|--------|---------------------|---------|
| 1回目 | 7月21日(土)  | 東二番町通り | 酷暑の為、室内作業           | 11名     |
| 2回目 | 8月25日(土)  | 東二番町通り | 13,195円             | 14名     |
| 3回目 | 9月8日(土)   | 東二番町通り | チラシ配布のみ<br>他地域災害に配慮 | 4名      |
| 4回目 | 10月13日(土) | 東二番町通り | 28,149円             | 8名      |
| 5回目 | 10月27日(土) | 東二番町通り | 25,605円             | 16名     |
| 6回目 | 11月17日(土) | 東二番町通り | 10,523円             | 8名      |

|     |          |        |         |     |
|-----|----------|--------|---------|-----|
| 7回目 | 3月9日(土)  | 東二番町通り | 16,373円 | 3名  |
| 8回目 | 3月23日(土) | 東二番町通り | 26,013円 | 10名 |

#### 【募金・PR活動】

|     | 日付        | 会場                                 | 募金額     |
|-----|-----------|------------------------------------|---------|
| 1回目 | 4月8日(日)   | 仙台フィル・オーケストラと遊んじゃおう                | 5,187円  |
| 2回目 | 5月4日(土)   | コア・ドゥ・ロゾー コンサート                    | 8,870円  |
| 3回目 | 11月23日(金) | 虐待防止・県北シンポジウム                      | 9,500円  |
| 4回目 | 11月25日(日) | 秋保子ども会チャリティフェスティバル                 | 1,820円  |
| 5回目 | 12月18日(火) | エマニュエル・ジラルー チャリティーコンサート            | 17,901円 |
| 6回目 | 2月4日(月)   | 田村市赤十字市民フォーラム                      | 57,080円 |
| 7回目 | 2月16日(土)  | 黒川病院小児科講演会                         | 300円    |
| 8回目 | 3月10日(日)  | Bloom Works & 幹miki Live in Sendai | 1,300円  |
| 9回目 | 3月29日(金)  | 人材養成研修                             | 23,286円 |

#### (5) 支援者・ボランティア・メディアとの関係強化

遠方の支援者との関係強化のため訪問を実施した。特に静岡県内で支援を継続して頂いている「羽ばたこう 子どもの村東北支援実行委員会」を訪問し、これまでのご尽力に御礼の意を伝えた。

#### 9) 資金開発の取組み

2018年度は予算収益計画の達成と、中長期的な観点から資金確保に取り組むことを目指した。特に認定NPOによる税制上の優遇措置が受けられるメリットの告知や口座自動引落とし、クレジットカード決済方式の導入、マンスリー寄付やお宝寄付の受付を新たに開始するなどの対策を講じた。しかし、支援会員個人新規83名の目標に対して34名(41.0%)、企業団体新規25社に対して5社(20.0%)にとどまった。支援会員個人の継続は688名の目標に対して645名(93.75%)、企業団体は68社に対して52社(76.47%)に終わり、継続率確保に課題が残った。

##### (1) 認定NPO法人としての情報提供

ニュースレターや新聞広告、HPなどを活用し、当法人へのご寄付は税制上の優遇措置が受けられることの告知を継続した。

##### (2) 遺贈寄付受付の告知体制づくり

遺贈寄付については告知媒体、表現など特に配慮が必要であることから、積極的かつ具体的な告知までには至っていない。今後は、信託銀行などへ情報提供を行うなど工夫を講じていく。一方、新たな取り組みとして家庭に眠る不用品を寄付に代える「お宝寄付」に参画し、10件で129,550円の寄付を得られた。今後は、遺贈の告知強化はもとより、新たな資金開発ツール開拓



も継続したい。

(3) チャリティーコンサート開催促進

昨年度並みにコンサート会場での募金・PR活動を実施した他、子どもの村センターハウスでチャリティーコンサートを開催して下さる方々の協力も得られた。しかし、子どもの村東北支援のための一定規模のチャリティーコンサート実現に向けては有効な手がかりを見出すに至っていない。

(4) 助成金確保への積極的取組

公益法人協会東日本大震災草の根支援組織応援基金（54万円）、東日本大震災子ども未来基金（50万円）、東北ろうきん復興支援助成金（30万円）に応募し助成していただくことができた。

(5) 支援者・協力者とのリレーション強化

スペシャルパートナーとの企業訪問など実施し、支援者とのリレーションを強化に努めた。今後は、支援者の集いなどを企画し、事業の成果報告、支援継続のお願いなどを強化する取り組みの検討を深めていく。

(6) 自販機、募金箱の新設強化と回収率向上を目指す。

自販機、募金箱の新設には情報提供も少なく苦戦が続いていたが、自販機新設にあたって、協力者の紹介で2台の設置がなされ、その内1台は継続して設置して頂くことができた。自販機は契約上の関係で撤去されるケースがあるものの、現時点では計15台の自販機が設置されている。募金箱の回収率向上については、特に企業団体に募金箱を設置して頂いているところへの協力を依頼し回収率向上に努めた。

◆目標達成状況

|            | 前年度実績    | 目標       | 実績       | 達成率   | 伸長率<br>(前年対比) |
|------------|----------|----------|----------|-------|---------------|
| 正会員 ・個人    | 45人      | 45人      | 44人      | 97.8% | 97.8%         |
| ・企業・団体     | 2社       | 3社       | 2社       | 66.7% | ±0%           |
| 支援会員 ・個人   | 917人     | 1,000人   | 938人     | 93.8% | 102.3%        |
| ・企業・団体     | 80社      | 105社     | 84社      | 80%   | 105%          |
| 飲料自販機 ・設置数 | 13台      | 18台      | 15台      | 83.3% | 115.4%        |
| 募金箱 ・設置数   | 269個     | 300個     | 284個     | 94.7% | 105.6%        |
| ・街頭募金額     | 238,788円 | 350,000円 | 119,858円 | 34.3% | 50.2%         |

※寄付金等の達成状況は決算書を参照

※実績は3月末時点

以上